

少年少女のための音楽鑑賞会

「音楽職人が創るステージ～あの音、あの曲、その素顔～」気仙沼・大船渡公演

(気仙沼市公演:6月29日 はまなすホール、大船渡市公演:6月30日 リアスホール)

サクソ・ソロの『ダニーボーイ』や会場が一緒になって口ずさむアニメ音楽メドレーなど、少年少女に生演奏のすばらしさを体験してもらい、あわせて著作権制度について知ってもらうコンサート。東日本大震災以降は、毎年被災地を訪れており、今年は宮城県気仙沼市と岩手県大船渡市で開催した。

両公演でおよそ850人の招待者が、特定非営利活動法人RMAJ (Recording Musicians Association of Japan) 所属のスタジオ・ミュージシャンの演奏を楽しんだ。



■演奏指導

このイベントでは、事前に出演者が地元の中高生らに演奏指導を行うのが特徴。

今回は、JASRAC会員でもあるクラリネット・サクソの佐野博美さん、ホルンの高野哲夫さん、パーカッションの益田和嘉子さんが、5月11日に気仙沼市の新月中学校、翌12日に大船渡市の第一中学校を訪れ、合計97人に指導を行った。



「今後どのように練習すればいいのかわかった。目標が持てた」などの感想を述べる生徒たちに対し佐野さんは「良い音を出す



ためには努力が必要。努力は人を裏切らない」とエールを送った。

演奏指導の様子は、岩手日報、三陸新報、東海新報など地元紙で報道されたほか、気仙沼市のケーブルテレビでも紹介された。

■コンサート

『歌劇「フィガロの結婚」序曲』で幕開け。『エーデルワイス』や、『崖の上のポニョ』、タンゴの名曲『リベルタンゴ』など多彩な楽曲が、しっとりとしたソロ演奏や迫力あるフル編成で演奏された。また、劇団四季出身の石橋ちさとさんが、舞台をいっ

ぱいに使って踊りと歌を披露したほか、佐野啓子さんが生演奏をBGMにした絵本の朗読で、男の子やおば



あさんなど七色の声を使い分け、会場を魅了した。

アンコールでは『故郷』を演奏。途中からは演奏者も楽器を置いて観客とともに歌い、コンサートを締めくくった。

■著作権クイズ

コンサートの合間には、バイオリンの小倉達夫さんと司会の佐野啓子さんがJASRACの役割を説明するとともに、「許可をとらずに音楽をのせているホームページだと知っていても、自分で楽しむためであれば、そこから音楽をダウンロードしてもよい」など、著作権に関する○×クイズを行った。(正解は×)



アンケートでは、「ソロがとてもすごかった。自分も演奏で、こんな空気感をつくれるようになりたい」(10代/中学生)、「震災後、心の余裕もなく生活してきたが、明日への活力になった」(40代/会社員)などの感想が寄せられた。

【出演】

城戸喜代(バイオリン)、小倉達夫(バイオリン)、渡部安見子(ビオラ)、増本麻理(チェロ)、一本茂樹(コントラバス)、旭孝(フルート)、石橋雅一(オーボエ)、高野哲夫(ホルン)、前田正志(ファゴット)、佐野博美(クラリネット・サクソ)、宮本一(ピアノ)、塩崎容正(ギター)、益田和嘉子(パーカッション)、石橋ちさと(ボーカル)、佐野啓子(司会・朗読)

【後援】

[気仙沼市公演]

宮城県、宮城県教育委員会、気仙沼市、気仙沼市教育委員会

[大船渡市公演]

岩手県、岩手県教育委員会、大船渡市、大船渡市教育委員会